

南ア月報
(2018年12月)

在南アフリカ日本国大使館

【内政】

- グローバル・シチズン・フェスティバル・マンデラ100の開催

【外政】

- マプーザ副大統領の IGAD 諸国歴訪
- マプーザ副大統領とキール南スーダン大統領の会談

【経済】

<経済指標>

- 消費者物価指数 (CPI)
- 為替レート
- 製造業
- 鉱業生産高

<出来事>

- 国際水素・燃料電池パートナーシップフォーラム の開催
- ランド (南ア通貨) 変動に対する影響調査
- 新たな経済特区の制定
- 第4回南アサイエンスフォーラムの開催

【警備】

- 邦人の犯罪被害発生状況 (2018年) について

1 内政

- グローバル・シチズン・フェスティバル・マンデラ100の開催

2日、故マンデラ大統領生誕100周年イベント「グローバル・シチズン・フェスティバル・マンデラ100」がFNBスタジアムで開催され、ラマポーザ大統領が演説を行った。また、ビヨンセ、エド・シーラン、ジェイ・Z、アッシャーが故マンデラ大統領に敬意を表し、コンサートを行った。

2 外政

●マブーザ副大統領の IGAD 諸国歴訪

7日から8日にかけて、マブーザ副大統領は、IGAD（政府間開発機構）の構成国であるケニア、ウガンダ及びスーダンを歴訪した。マブーザ副大統領は、ラマポーザ大統領に任命された南スーダン特使として、ケニヤッタ・ケニア大統領、ムセベニ・ウガンダ大統領及びバシール・スーダン大統領と会談した。一連の会談では、南スーダンの平和と安定が話し合われた。ケニア、ウガンダ及びスーダンは、9月に署名された和平合意の重要なステークホルダーである。

●マブーザ副大統領とキール南スーダン大統領の会談

12日、マブーザ副大統領は、キール南スーダン大統領とプレトリアで会談した。両者は、9月の和平合意が予定している暫定統一政権の樹立に向けた進捗状況に関し話し合った。

3 経済

<経済指標>

●消費者物価指数（CPI）

11月の消費者物価指数（CPI）は、前月比0.1%増の5.2%。10月から11月にかけて、物価は平均して0.2%上昇した。（南ア統計局、12月12日）

●為替レート

2018年12月31日付（南ア準備銀行）

7.6386 円/ランド

14.4116 ランド/米ドル

16.4848 ランド/ユーロ

●製造業

10月の製造業は、前年同月比3.0%増。主なプラス要因は、食品・飲料製品で6.5%増、自動車及び輸送機器関連製品で14.0%増、及び鉄鋼、非鉄金属製品及び電気で3.2%増。季節調整後生産高は、前月比1.1%増。10月までの3ヶ月間の季節調整後生産高は、製造業10分野のうち、8部門での増加がみられた。特に、石油、化学製品、ゴム及びプラスチック製品及び木材、木製品、製紙、出版及び印刷製品でそれぞれ1.8%増となった。（南ア統計局、12月11日）

● 鉱業生産高

10月の鉱業生産高は、前縁同月比0.5%増。特に、PGMsで21.4%増、ダイヤモンドで27.2%増、マンガン鉱石で19.9%の生産高となった。他方、鉄鉱石とダイヤモンドでそれぞれ22.0%と15.1%の生産減となった。季節調整後生産高は、前月比3.3%増。また、10月までの3ヶ月間とそれ以前の3ヶ月間で1.5%減となり、特にダイヤモンド、鉄鉱石と金がマイナス要因となった。(南ア統計局、12月11日)

<出来事>

● 第30回国際水素・燃料電池パートナーシップフォーラム (IPHE) の開催

12月4日から7日、科学技術省は、水素の活用及び燃料電池市場拡大を目指す、IPHE (International Partnership for Hydrogen and Fuel cells in the Economy) をプレトリアで開催。米国、日本、中国、仏国、伯国、印国、ジンバブエ、欧州コミッションらが参加し、水素・燃料電池分野に対する各国・各組織体の取組・事例を紹介するとともに、G20等含む今後開催される国際会議との連携や関係者間の協力のあり方を議論。

(科学技術省 Website・Engineering News, 12月3日)

● ランド (南ア通貨) 変動に対する影響調査

Bloombergは、国内銀行、CEO、CFO、外貨ヘッジファンド幹部ら160名以上を対象にランドに関する聞き取り調査を実施したところ、結果概要は次の通り。

・ランドへの外部影響要因：①世界の経済成長及び市場変動 (37%)、②外資による南ア国内投資 (31%)、③米国の金融政策 (21%)、④貿易摩擦 (11%)

・2019年のランドへの国内事情影響要因予測：①政治環境 (54%)、②南ア準備銀行の金利政策 (22%)、③国内失業率 (17%)、④鉱業 (7%)

・2019年のランド為替 (対米ドル) の変動幅予測：R12-15

(Bloomberg, 12月10日)

● 新たな経済特区の制定

ラマポーザ大統領は、西ケープ州に新たな経済特区「Atlantis Special Economic Zone」を制定したことを発表。同特区はケープタウンから60kmほどの場所に位置し、124.5ヘクタールの広さにグリーン・テクノロジー、廃棄物マネジメント、クリーン・テクノロジーなど環境負荷を軽減する技術開発に特化する予定。投資額は、2022年までに18億ランドを見込んでおり、短中期のうちに1400人分の雇用を創出する。グリーン・テクノロジー関連の4社がすでに事業を実施中。ラマポーザ大統領は経済特区のオープニング式典にお

いて、同特区は西ケープ州の広範囲にグリーン・テクノロジーを普及させると共に、重要な産業地へと発展することに期待を寄せた。(Engineering News 電子版、12月6日)

● 第4回南アサイエンスフォーラムの開催

12日～14日、南ア科学技術省主催の南アサイエンスフォーラム(SFSA)が科学産業研究評議会(CSIR)国際会議場にて開催された。本フォーラムはアフリカ各国の研究者、科学者、政策立案者、学生らが一同に介する科学技術の対話プラットフォームとして開催され、今回は88カ国から3000人の人々が参加。クバイ＝ヌグバネ大臣は、SFSAはアフリカ大陸におけるSTIのさらなる発展に寄与するとともに、AUアジェンダ2063やSTIアフリカ戦略にも貢献すると発言。SFSAには各国の外交団の他に、AUの人的資源及び科学技術担当のアルポール委員なども出席。(科学技術省HP、12月14日)

4 警備

● 邦人の犯罪被害発生状況(2018年)について

南ア国内において2018年中に発生した邦人を被害者とする犯罪の発生件数については、37件で前年比3件の減少となった。邦人被害件数は前年比で減少したものの、2016年と比較すると10件以上多い状態で高止まりしており、当局による治安改善の取り組みが行われてはいるものの、危険な状態が続いていると言わざるを得ない。

2018年は、昨年急増した強盗の被害が減少した一方で、置引き・車上ねらい(窃盗)の被害件数が増加した。車上ねらいには、ガラス・鍵等車の破壊及びジャミングの手口があり、車内には貴重品を残さないことが肝要。

ATMで現金を引き出す際にデビットカード等をすり盗られ、直後からカードを不正使用される事案が前年比プラス3件で、増加傾向となっている。この種事案の対策として主要銀行が提供する「カードレス現金引出サービス」は有効である。

罪種(手口)		2017年	2018年
窃盗等	自動車盗	1件	1件
	置引き	3件	6件
	車上ねらい	6件	8件
	ひったくり	0件	2件
	侵入盗	6件	2件
	スマッシュ・アンド・グラブ	1件	1件
	ATMカード盗	2件	5件
	スリ	1件	1件

	偽警察官による窃盗	2件	0件
	スキミング/ カード不正使用	1件	3件
強盗	路上強盗	3件	2件
	カージャック (うち偽警察官)	12件 (6件)	2件 (0件)
	住宅侵入強盗	1件	0件
	その他	1件	4件
	計	40件	37件